特集
クラウドインフラに関するCTCの取組み

企業内クラウドへのCTCの取組み

IT基盤の仮想化統合化推進モデル「RePlatform」を基軸に企業内クラウドの価値向上を支援

クラウドコンピューティング技術による利用型のサービスが脚光を浴びている。特に新しいコンピューティングスタイルとして、ユーザー企業がクラウドに寄せる期待は大きく、パブリッククラウドの活用に加え、プライベートクラウド（企業内クラウド）が注目を集めている。伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）では、IT基盤の仮想化統合化推進モデル「RePlatform」を基軸に、クラウドインフラに関するトータルソリューションを展開している。

IT基盤の仮想化統合化推進モデル「RePlatform」

IssS（HaaS）やSaaS／PaaSなど、ITインフラやソフトウェアをサービスとして利用するクラウドコンピューティングが脚光を浴びている。「霞が関クラウド（仮称）」の構築や総務省主催の「スマート・クラウド研究会」など、わが国でもクラウドコンピューティング技術の導入に対する取組みが加速しており、パブリッククラウドに加え、特に企業内の異なる部門／システムでリソースを共有する「企業内クラウド」が注目を集めている。ビジネスの基盤であるITインフラ全体のコスト抑制に加え経営環境の変化に対する迅速な対応など、ユーザー企業がクラウドに寄せる期待は大きい。

このような状況を踏まえ、CTC ITビジネス推進室インフラソリューション推進部の東智之部長は「お客様は、クラウドコンピューティングについて、コスト削減、柔軟なスケールアップ／ダウン、システム展開の迅速性、信頼性・可用性、複雑なIT管理からの開放などを期待されていますが、最も重要なのは戦略です。お客様にとって、戦略なきクラウド化は、大きな弊害を引き起こしかねません」と指摘した上で、「CTCは、企業内クラウドは仮想化統合基盤であり、その価値は短期的にはコスト削減・効率化の命題に対する解、中長期的には将来本格化するパブリッククラウドに対する準備にあると考えています。私どもは、この基本コンセプトに基づくIT基盤の仮想化統合化推進モデル『RePlatform』を基軸に、クラウド化に向けた課題の抽出から構想立案、要件定義、設計・構築・移行、運用までの全工程に及ぶトータルソリューションを展開しています」と語っている。

伊藤忠テクノソリューションズ㈱
ITビジネス推進室
インフラソリューション推進部　部長
東 智之氏

RePlatformに基づいて、これまでシステム毎に調達・運用されているITインフラを統合化（共通基盤化）し、さらに、仮想化統合基盤をベースにサービス化を図ることでプ

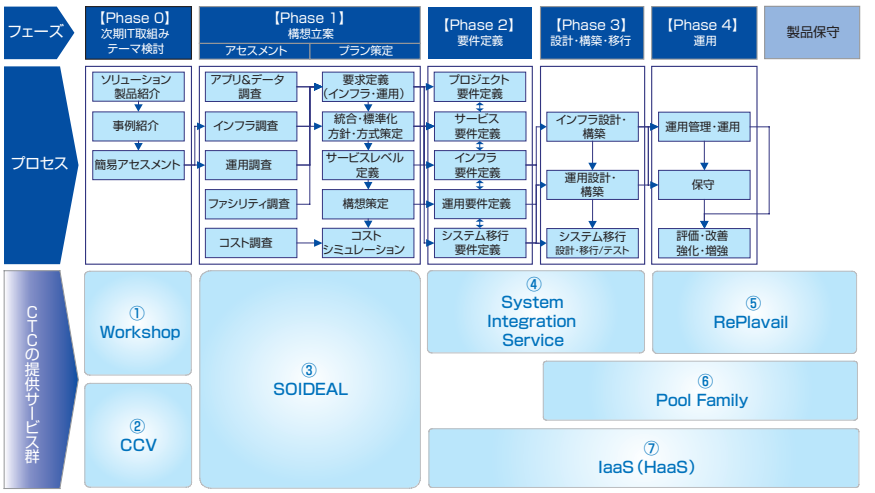

図1　IT基盤の仮想化統合化モデル「RePlatform」

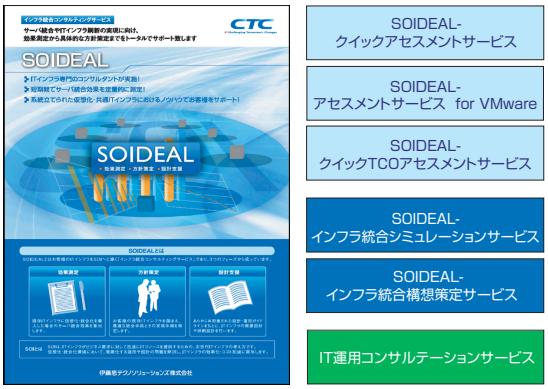

図2　SOIDEALの概要

図3　Pool Familyの概要

ライベートクラウド化を実現するというのが、CTCの企業内クラウドの実現シナリオだ。

企業内クラウドの戦略策定から構築・運用までの全領域をカバー

CTCは、企業内クラウドの実現に向け、RePlatformを基軸に、フェーズ0～フェーズ4、さらには製品保守に至る全領域において、各フェーズに対応したソリューション／サービスを提供している（図1参照）。

①Workshop：仮想化統合基盤を検討するにあたり、お客様の情報武装を支援する目的にて、統合化、グリーン、セキュリティ等、キーワード別にユーザー企業が抱える命題を切り口にした技術情報を提供。

②CCV（Competency Center for VMware）：国内最大級のマルチベンダー検証施設であるTSC（テクニカルソリューションセンター）内に設置された仮想化に特化した検証施設。共通型ITインフラに欠かせない仮想化技術に対して、各種メニューを取り揃え、仮想化技術をユーザーが直接体感できる場を提供。

③SOIDEAL（ソイディール）：企業のITインフラをSOI（Service Oriented Infrastructure）へと導く「ITインフラ統合コンサルティングサービス」。共通ITインフラ実現へ向けた初期検討から効果測定、方針策定、後続の設計フェーズを意識した形にてユーザーをサポート（図2参照）。

④System Integration Service：仮想化・SOIに関わる実績とノウハウにより、ユーザーにあわせてカスタマイズしたシステムインテグレーションが可能。特に、製品ではなく技術に特化したマルチベンダー環境を得意にしている。

⑤RePlavail（リプラベイル）：仮想化技術（VMware）を用いた統合インフラ基盤をプロアクティブに予防措置し、常にアベイラブルな状態に維持し続けるリモートマネージドサービス（詳細は後続頁で紹介）。

⑥Pool Family：CTC独自ソリューションをパッケージサービス化したPool Familyにより、SI工程にかかる時間を短縮し、品質の高いインフラを迅速に提供にしている（図3参照）。

⑦IaaS（HaaS）：CTCのデータセンターで提供するパブリッククラウドサービス。持たざる経営を指向する企業向けに、ITインフラ資産をデータセンターに保有し、仮想化技術とシステム運用ノウハウを用いることで、信頼されるインフラ共通基盤をベースにした仮想化シェアード・ホスティングサービス「Techno CUVIC」を提供している。

全社横断バーチャルプロジェクトチームが「RePlatform」を牽引

CTCでは、保守・運用サービス事業グループを中核に、横串組織と営業事業グループを含めた社内横断のバーチャルなプロジェクトチームを編成し、週1回の定例ミーティングの開催や案件に応じたアドホックな打ち合わせなど、緊密に連携しながらRePlatformの展開をドライブしている。

東部長は「RePlatformは、クラウド化の第一歩の推進モデル。今後は、企業内クラウドとパブリッククラウドの連携など、エンタープライズクラウドも視野に取り組んでいきたいと考えています」と抱負を語っている。